



ご存じですか？

## 髪を染める染毛剤が危ない！！

理容・美容業界にも知らされていない染毛剤の毒性

通産省の統計によると染毛剤は毎年順調な伸びを示し、95年に出荷額800億円を超え頭髮化粧品の中ではシャンプーに次いで第2位の躍進ぶりです。これは、高齢化社会を迎え、白髪を気にするお年寄りが増えたのに併せ、茶髪がファッションとして若者たちの間に受け入れられたことが大きな要因といえるでしょう。

茶髪に染めている人たちは、染毛剤に含まれている毒性物質の問題にどこまで気づいているのでしょうか。

一般の理・美容室がメーカーから注意されていることは、「かぶれることがあるから気をつけて下さい」の一点に集約されます。あなたも、はじめてのお店で「かぶれることがありますか」・「かぶれやすい体質ですか」と聞かれた覚えが有るでしょう。さらに、かぶれだけでなく、染毛剤には、ガンや成人病との関連性もあるのです。

頭皮のバリアゾーンがあぶない！

頭皮の表面は固い角質層（バリアゾーン）で覆われています。他の皮膚に比べてもかなり頑丈にできています。これは、皮脂腺から分泌される皮脂（アブラ）が固くてもろいタンパク質を潤し、よりいっそう強固にしているからです。皮脂はまた、髪の毛につやを与え、髪の毛の乾燥を防ぐという役目を果たしています。さらに、頭皮の表面に広がって汗と混ざり合い、PH 4.5 から 6.0 という酸性の薄い膜をつくって細菌などから頭皮を保護しているのです。頭皮のタンパク質が強固になれば、角質層が破壊される心配はありません。

男性は、皮脂の分泌が豊富な分だけ角質層が強いのですが、皮脂の分泌が少ない女性は、角質層が弱いために、男性に比べて毒物の侵入を許しやすいという弱点をもっています。基本的にそうした弱点をもつ女性が、過去、男性以上に一生懸命励んできたことは何でしょうか。毎日の朝シャンをはじめとする必要以上のヘアケア、最近では茶髪という行為が、それに拍車をかけています。これまで多くの人達は合成シャンプーによって、汚れを落とすだけにとどまらず、頭皮や髪の毛のタンパク質を溶かし、皮脂を過剰なまでに、はぎとってしまう行為を何百何千回と繰り返してきたのです。

本来、バリアゾーンは、あらゆる外界の異物から私達の体を守ってくれる防壁だったはずですが、ところが、いまや頭皮の角質層はスカスカのモロモロ状態。すぐ下の顆粒層まで異物の侵入を許してしまい、バリアゾーンとしての機能を著しく低下させています。

炎症、湿疹、かさぶたなどの急性毒による頭皮障害を訴える人が増えているのは、現代人の頭皮が、薬品（毒物）をはね返すだけの力を失っている何よりの証拠です。頭皮から一度入った毒物は食べた毒物と違ってなかなか排出されません。ヘアケアするたびに皮内にどんどん蓄積されていきます。それが長い年月を経てもたらされた結果が、薄毛・白髪・ハゲなどの悲劇です。これは、すでに毒物が皮肉奥深くまで潜行し、毛母細胞はおろか、毛母細胞に連動しているメラノサイトという黒髪の色素をつくる細胞まで侵していることを意味します。バリアゾーンが破壊されても、すぐ自覚症状となって現れません。慢性毒がおそろしいのは、ある日突然大きな被害となって現れることです。それは何も髪や頭皮に限った話ではありません。今問題になっているのは、毒物が体内を駆け巡って内臓疾患を起こす事です。「茶髪がガンを誘発する！」こんなこと、あなたは信じられますか？

### 茶髪がなぜガンを誘発するのか？

発色剤に含まれる危険な「アミン」

ヘアダイの場合まず、発色剤を髪の毛に浸み込ませる。次に酸化剤を浸み込ませる。すると、髪の毛の内部で発色剤が酸化され、好みの色に染め上がる。髪は、表面の皮質だけでなく、中心の髄質まで染めないともだらになる。だから薬品を髪の毛の奥まで十分に浸透させる為に浸透剤（合成界面活性剤）を使う。ヘアダイの作業途中で薬品が一滴も頭皮にかからないということはありません。合成界面活性剤によってバリアゾーンが壊され、薬品の毒性が皮肉に入る。初期症状としてかぶれや湿疹などのアレルギー反応が起きる。ヘアダイを繰り返すうちに、細胞が次々に破壊される。毒性が真皮より深いところにジワジワ浸透し、あるいは血管壁を突破して血液中に侵入する。フェノール系やアミン系の発ガン物質が、体の中を駆け巡る。そして少しずつ体内に蓄積される。

10年後になるか20年後になるか、体のどの部分がガンにかかるかわからない。その可能性は決して低くないのです。ヘアダイ（酸化染毛剤 / 医薬部外品）

### ヘアダイでガンになっても誰も責任はとらない

これまで私達は理・美容室に通うと同時に、さまざまなヘアケア商品を購入して使ってきました。慢性毒の恐ろしさを知らされていないという現状の中で、この先、同じような愚行をくりかえし、仮にガンや白血病にかかるような不幸に見舞われたとしても、まさか化粧品やヘアケア商品に原因があるなどとは考えもしないでしょう。せいぜい、生まれながらの体質や不規則な生活、偏食、喫煙習慣などに原因を求めるのが関の山です。ましてや、「おたくのヘアマニキュアでガンになった」と訴えたところで一笑に付されることは目に見えています。つまり、だれもあなたの身の安全を保証してくれる人はいないということです。

参考図書 「あなたの茶髪が危ない」(メタモル出版)